

音を楽しむという、人類だけが育んできたゆたかな芸術。見開きページで1テーマがわかるユニークな着想で、音楽の歴史の「それまで」と「その後」がまとめられ、古代から現代まで人類がいに音楽と親しんできたか、また音楽がいに進化したかが理解できる。「主要作品」では、多種多様なジャンルとスタイルの作品を紹介し、「人物紹介」では、ルネサンスの音楽家からヒップホップ、クラブカルチャーまで、時代を代表する作曲家、演奏家、歌手など音楽家の生涯と主要作品を図版とともに解説する。

見て楽しい、
世界初の
音楽大図鑑!



ピアノやヴァイオリンなど、基本的な楽器に関しては、年表つきで進化と発達の歴史が分かり、細部の構造まで徹底的に解説する



「日本の演劇」では能、狂言、歌舞伎を紹介しているほか「日本のポピュラー音楽」では八代亜紀からAKB48まで、幅広く紹介されている

図版数約1200点、掲載楽器数363点、索引数3332項目、用語集306項目!

■定価/本体14,800円(税別)
■体裁/B4変型 ■上製本/400ページ ■オールカラー



■古代の楽器から、コンピュータ音源MP3の登場まで。西洋の交響曲から各地の民族音楽まで。モーツァルトの手書きの楽譜から、ミニマル・ミュージックの記譜まで。音楽史をユニークな着想で解説。

■ヨーロッパから南米、アジアからアフリカまで、ほぼ世界中を網羅し、西洋に偏らない完全な音楽史を図示する唯一の図鑑。

■ストラディヴァーリのギターやヴァイオリン、インドネシアの民族音楽・ガムラン合奏の配列、スティーヴィー・ワンダーのハーモニカやポップ・ディランのギターなど、貴重な楽器の写真を満載。クラシックのみならず音楽のあらゆるジャンルと時代の楽器と演奏方法が一目で分かる、圧巻のビジュアル図版。

■歴史のみならず、音の発生、文化現象としての音楽史、音階理論、楽器の発展と変遷、歴史における重要な作曲家、現象までを、1000点以上の膨大な図版で見せた、世界初の大図鑑。

【英語版監修】ロバート・ジークラー (Robert Ziegler)

イギリス、アメリカをはじめとする世界各国でオーケストラを指揮しており、『ゼア・ウィル・ビー・ブラッド』、『ホビット』、『いつか晴れた日に』など、映画のオリジナル・サウンド・トラックの指揮も手がける。英国放送協会 (BBC) のテレビおよびラジオ番組に携わり、受賞歴もある。

【英語版監修】スミソニアン協会 (The Smithsonian Institution)

1846年設立。米国の国立学術文化研究機関。19の博物館とギャラリー、国立動物園からなる世界でもっとも大きな博物館群・研究機関複合体。1億3700万点もの工芸品や美術品、標本などの収蔵物を所有し、多くは国立自然史博物館に収蔵。国立動物園には4000もの動物が飼育されている。芸術や科学、歴史の分野での公共教育や国家サービスを目的としている。

【日本語版監修】金澤正剛 (かなざわ まさかた)

1934年東京生まれ。1966年ハーバード大学大学院博士課程修了(音楽学)。同年帰国後、国際基督教大学をはじめ幾つかの大学で非常勤講師を務め、さらにハーバード大学イタリヤ・ルネサンス研究所(フィレンツェ)の研究員、アンティオク大学及びアールハム大学の客員教授などを務めた後、1982年に国際基督教大学教授に就任。同大学宗教音楽センター所長を兼ね、2004年より名誉教授。著書『モンテ・カシノ音楽手写本第871号』(イザベル・ボープと共著、英文)で1980年度ASCAP賞を、『古楽のすすめ』で日本ミュージック・ペン・クラブ大賞を受賞。ルネサンス音楽史専攻。

河出書房新社 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-32-2 TEL.03-3404-1201 FAX.03-3404-0338 <http://www.kawade.co.jp>

【お申し込み書】 河出書房新社 特約店 **世界の音楽図鑑 MUSIC** [ご注文数 冊]

本 体 14,800円(税別) ISBN978-4-309-25554-5 2014年10月下旬発売

お名前 _____ お電話 _____

ご住所 _____

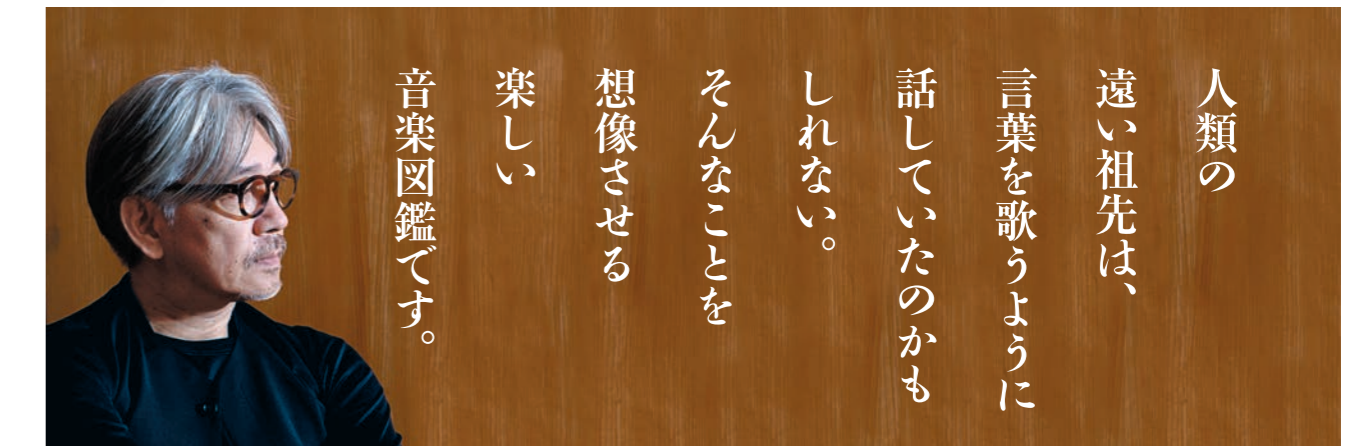
世界の音楽 大図鑑 MUSIC THE DEFINITIVE VISUAL HISTORY



ロバート・ジークラー/スミソニアン協会 [監修] 金澤正剛 [日本語版監修]
Robert Ziegler The Smithsonian Institution Masakata Kanazawa

先史から現代まで、クラシックからジャズ、ポップスまであらゆる国と地域の音楽、楽器、人物…

すべてを網羅した
ヴィジュアル図鑑



人類の
遠い祖先は、
言葉を歌うように
話していたのかも
しれない。
そんなことを
想像させる
楽しい
音楽図鑑です。

坂本龍一氏推薦!

河出書房新社

音楽史をはじめ、作曲家と演奏家、作品について、楽器の進化と分類など、先史時代から現代のテクノロジーまでを完全図解。権威ある米国スミソニアン協会監修による、世界初の大図鑑。



古代の楽器

最初の楽器は骨、木、竹、貝で作られた。金属製の楽器はおよそ4000年から5000年前に発達し、取られたり、採りたりして演奏された。

【図説】 世界各地にはさまざまな楽器があり、時代はたどるにつれて、楽器にさまざまな進化が加わってきた。その中でも、最も重要な進化の一つは、音の出し方である。音を出す方法は、音の出し方によって大きく異なる。音を出す方法は、音の出し方によって大きく異なる。音を出す方法は、音の出し方によって大きく異なる。

古代から現代まで年代ごとに、また弦楽器、打楽器などジャンルごとに、さらに世界のあらゆる民族楽器までを見せた初の試み

作曲家 1840年生、1893年没

ビョートル・イリイチ・チャイコフスキー

「私の人生は後悔ばかりだ」
チャイコフスキーの遺言、享年53歳（1893年没）

「あの恐ろしい日は、昨日のことのように生々しく覚えている」
25年前の晩年に記したチャイコフスキーの遺言（1879年）

作曲家の生涯は、音楽を通じて人々に愛され、そして人々の心を打撃した。チャイコフスキーは、ロシアの音楽界をリードし、世界に知られるようになった。彼の音楽は、人々の心を打撃し、そして人々の心を打撃した。

モーツァルト、チャイコフスキーからマリア・カラス、エルヴィス・プレスリー、ジョン・レノンまで、時代を代表する音楽家の生涯と作品を紹介

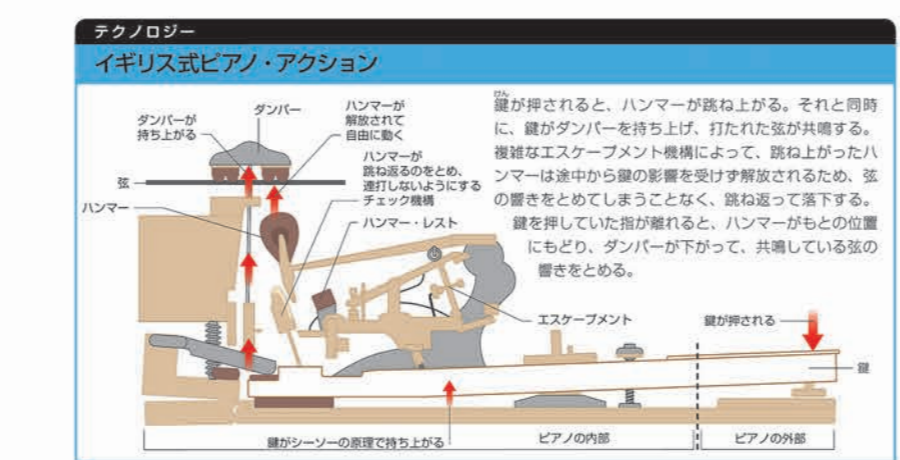
古典派の時代 1750～1820年

ピアノ

ピアノは西洋音楽を象徴する楽器として、強い存在感を放っている。まるで一つのオーケストラのように機能することもあり、時に作曲家の心の奥底にある想いも引き出す。ほかのどの楽器よりも万能で、影響力のある楽器である。

イタリア語で「弱い音と大きな音」を意味する、楽器製作者バルトロメオ・クリストフォリの「ピアノフォルテ」は、18世紀初期の鍵盤楽器に、繊細な響きをもたらした。直感的な習得が比較的容易であり、オーケストラに匹敵する幅広い音域を持つピアノを所有することは、市民にとって重要なステータス・シンボルの一つになった。

家庭での演奏の需要に応える作品は実入りがよく、ソナタや変奏曲、ファンタジアなどが書かれた。1780年代になるとさらに、イギリスの楽器製作者ジョン・アプドウッドが、はるかに力強い響きが持続する楽器を開発し、新たな可能性を開けた。ペーターヴェンもショパンも、この楽器を弾いている。ロマン派の時代、リスト（p162～163）などのピアノの名手によって、ピアノは独奏楽器としての



スタート製ピアノ、1828年。ほぼ完全な金属製フレームによる最初のピアノ。より大きな音量を得るために、木になり、弾力が増した弦に対応するために製作された。

初期のピアノの鍵はモダン楽器のそれよりも軽く、薄く、細かったため、ピアノを習う生徒たちは、適切なやさしいタッチで弾くことができなかった。手の甲にコインを乗せて練習するよう教えられた。

内部の強度
ワン・ピースの精緻フレームが音響するまでは、弦の張力を高め、それによって調弦を安定させ、音量和響きを持続させるために、この楽器に見られるような金属製の骨組みが使われた。

ダンパー（サステイン）ペダル
ワナ・コルダ（ソフト）ペダル

1853年
スタインウェイ・アンド・サンズ
アメリカノイドのピアノ製造社
インウェイ・アンド・サンズが、この年に創立される。高品質のピアノメーカーとして世界的に知られ、数多くの受賞歴を得る。

1828年
初期グランド・ピアノ
初期のグランド・ピアノは、金属製の骨組みによって、弦の張力が高められ、より響くようになったが、近代の基準に照らせば、その響きはまだまだかなり薄く、すぐに消えてしまっていた。

1840年代
ピアノの名手
フランス・リストの高度な演奏技術により、ピアノの脚光を浴びるようになる。広範な演奏旅行、ピアノ・リサイタルという演奏形態、簡潔によるカリスムの演奏などが、コンサート・ピアニストとしての活動を定義するようになる。

1890年代
電子ピアノの登場
電子ピアノの登場によって、演奏に投入する音の複雑性が劇的に増える。持ち運び可能な電子ピアノは、理想的な楽器として家庭に普及するとともに、ポピュラー音楽でも場所を使われるようになった。

19世紀末
モダン・グランド・ピアノ
19世紀末になると、鉄製のフレームと3本のペダルを持つ88鍵のコンサート・グランドが登場。その後進化しているものの、大きな変化はない。

1960年代
電子ピアノ
ヤマハの電子ピアノ「サイロ」の登場によって、演奏に投入する音の複雑性が劇的に増える。持ち運び可能な電子ピアノは、理想的な楽器として家庭に普及するとともに、ポピュラー音楽でも場所を使われるようになった。

年譜

16世紀
ハープシコード
均一な力で弦をはじくハープシコードは、音が長く響く音が響きやすい楽器である。独奏曲も書かれたが、一般的に伴奏楽器として使われる。

1700年
クリストフォリのピアノ
クリストフォリのピアノの発明は、1700年のメテ・チダの発明である。バルトロメオ・クリストフォリが考案したピアノは、均一な力で弦をはじく楽器で、ハープシコードよりも音が小さく、それほど早くも広まらなかった。

18世紀
スクエア・ピアノ
スクエア・ピアノは、モダン・アップライト・ピアノに相当するスクエア・ピアノは、安くて使いやすい形状をしており、1760年代以降、家庭での演奏フォームを後押しする。家庭ではダイニング・テーブルとして使われることもあった。

18世紀
ペーターヴェン
ペーターヴェンが考案したアップライト・ピアノは、モダン・アップライト・ピアノの前身である。均一な力で弦をはじく楽器で、ハープシコードよりも音が小さく、それほど早くも広まらなかった。

1828年
初期グランド・ピアノ
初期のグランド・ピアノは、金属製の骨組みによって、弦の張力が高められ、より響くようになったが、近代の基準に照らせば、その響きはまだまだかなり薄く、すぐに消えてしまっていた。

1840年代
ピアノの名手
フランス・リストの高度な演奏技術により、ピアノの脚光を浴びるようになる。広範な演奏旅行、ピアノ・リサイタルという演奏形態、簡潔によるカリスムの演奏などが、コンサート・ピアニストとしての活動を定義するようになる。

1890年代
電子ピアノの登場
電子ピアノの登場によって、演奏に投入する音の複雑性が劇的に増える。持ち運び可能な電子ピアノは、理想的な楽器として家庭に普及するとともに、ポピュラー音楽でも場所を使われるようになった。

19世紀末
モダン・グランド・ピアノ
19世紀末になると、鉄製のフレームと3本のペダルを持つ88鍵のコンサート・グランドが登場。その後進化しているものの、大きな変化はない。

1960年代
電子ピアノ
ヤマハの電子ピアノ「サイロ」の登場によって、演奏に投入する音の複雑性が劇的に増える。持ち運び可能な電子ピアノは、理想的な楽器として家庭に普及するとともに、ポピュラー音楽でも場所を使われるようになった。

【第1章】 先史時代から古代・紀元前6万年～紀元500年
人類、音楽をする者 / 音楽のゆかり / 哲学的な見かた / 神話と悲劇 / トランペットを鳴らせ

【第2章】 中世の音楽…500～1400年
聖歌・ミニストレルとトルバドール / 旋律を書きとめる / ツィターとリラ、サクソバットとショーム / イスラムの音楽 / 古代中国の音楽 / 多声部の音楽～中世からルネサンスへ

【第3章】 ルネサンスと宗教改革…1400～1600年
妻の歌 / 楽譜印刷が始まる / 器楽の発展 / 礼拝の中で / リューターの黄金時代 / マドリガーレ / イベリア半島の繁栄 / ヴェネツィアの栄光

【第4章】 バロックの精神…1600～1750年
バロック様式 / オペラの誕生 / オラトリオとカンタータ / ハバロネと作曲家 / イギリス復興 / 対位法とフーガ / ソナタ、組曲、序曲 / 鍵盤楽器の巨匠たち / 日本の演劇

【第5章】 古典派の時代…1750～1820年
明瞭さという新たな規範 / オーケストラ / ソナタ / 交響曲 / 親しい仲間と演奏を楽しむ / 理性的時代 / オペラの発展 / 合唱曲 / 協奏曲 / ボヘミア楽派

【第6章】 民族主義とロマン主義…1820～1910年
ペーターヴェンの後期作品 / ピアノの表現力 / 宗教的合唱曲 / ヴィーン・ワルツ / フラメンコ / バレエ音楽 / 交響曲の天下 / 現実を見るイタリア・オペラ / 印象主義 / ほかに

【第7章】 近代の音楽…1910～1945年
衝撃的な新しさ / スペインのクラシック音楽 / メキシコの音楽 / カントリーのルーツ / ジャズの始まり / フルーツの誕生 / ラテン・ビート / レッツ / タンゴ / ラジオの黄金時代 / ほかに

【第8章】 世界の音楽…1945年～現在
モダン・ジャズ / 初期のミュージカル・シアター / 映画音楽 / ハリウッド・ミュージカル / リズム・アンド・ブルース / ヘヴィ・ロック / レゲエ / 日本のポピュラー音楽 / デジタル革命 / ほかに